

別府湾の海面ごみをなくしたい セーリング学ぶ子どもたちが取り組み

2020/12/21 03:00.



セーリングの練習帰りに海に漂うごみを拾っている子どもたち＝別府市の北浜ヨットハーバー

【別府】別府市の「B & G別府海洋クラブ」（浜本徹夫代表）でセーリングを学んでいる子どもたちが、海面に漂うビニール袋などのごみ拾いに力を入れている。沖合での練習を終え、着岸するまでに見つけて回収。海洋プラスチックなどが世界的に問題になる中で「自分たちができることを」と身近な別府湾から取り組み始めた。

艇庫のある北浜ヨットハーバーが活動拠点。所属する小中学生10人は沖合3キロ四方のエリアで練習を重ねているが、しばしばペットボトルやビニール袋が漂流。夏場は豪雨もあって河川から流入しやすいという。

海面のごみ拾いは4月にスタート。大分市明野中1年の齊脇倅祐（さいわきこうすけ）君（13）は「きれいな海で練習や試合がしたい」と思いを明かす。

指導者の浜本代表（61）が、環境省の海洋プラスチックごみ削減キャンペーン「プラスチックスマート」に賛同して子どもたちに呼び掛けたのがきっかけ。クラブが所属する全国組織「日本オプティミストディンギー協会」の理事長も務めていて、別府の取り組みをインターネットで発信し全国的に輪を広げたい考えだ。

回収されずに海へ流れ込む海洋プラスチックごみは世界中で大量発生。海の生物に悪影響を与えるなど世界的課題で、国連は「SDGs（持続可能な開発目標）」の中で「海の豊かさを守ろう」と示している。

浜本代表は「若いうちにSDGsや環境への意識を育めば、ごみを捨てる大人にはならないはず。子どもたちと一緒にきれいな海を取り戻したい」と思いを込めた。

※この記事は、12月21日 大分合同新聞 13ページに掲載されています。